

オンラインコーチング研究第13回 なぜスポーツをやるの？

ちょっと気になっていたことがありました。なぜ人間はスポーツをやるのでしょうか？あんなに疲れて、勝ったといっちは泣いたり喜んだり、負けたといっちは泣いたり悔しがったり。そんなに感情が動くものだったら、しないほうがマシでは？

そんな疑問がフツフツと起こっていや矢先。勤務校で研修会がありました。人間学を提唱している上智大学のG.フローレス神父様からお話がありました。

そのお話を聴いていたら、人間はそもそも次のような本質を持っているとのこと。つまり、ホモサピエンスと呼ばれるのは、人間は好むと好まざるとに係わらずどうしても「考えて」しまう存在だと言うこと。この語源は聞いたことがあります。そしてどんどん神父さまは続けて書いていきました。そして5番目の本質としてホモ・ルーデンス(遊びの存在)をあげられました。

なるほど！やっぱりそうだったのかと感動しました。納得しました。

ボールをひたすらに追うのは、楽しいからであって優勝とか、地区大会ベスト4を目指すわけではなくいんですね、本質的には！ボールが飛んでくると捕まえたいくなる、ボールを見ると投げたいくなる、蹴りたいくなるのは人間存在の本質のようです。わたしたちの細胞の中にそういう情報が何百万年もかかってプリントされてしまったのでしょう。ちなみに人類(ホモ・サピエンス)は400万年前にアフリカで誕生したと言われています。

人間性を特徴づける要素は次の通り。

Homo sapience	ホモ・サピエンス	考える存在
Homo socialis	ホモ・ソシアルリス	社会的存在
Homo loquens	ホモ・ロケンス	ことばを操る存在
Homo ridens	ホモ・リデンス	笑う存在
Homo ludens	ホモ・ルーデンス	遊び・芸
Homo faber	ホモ・ファベル	働く存在
Homo amans	ホモ・アーマンス	愛の存在
Homo religious	ホモ・リリギオス	宗教心

2006年 盛岡白百合学園職員研修会における講話
G.フローレス神父(上智大学神学部教授)